

澄川図書館だより

2017年2月号

南区澄川4条4丁目5-6

TEL.822-3730

札幌市の図書館ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/toshokan/>

2月の行事

◇ おはなしの会

- 2月4日(土)午後2時30分から 1階おはなしのへや
「ゆきのひ」ほか (「子どもと共に本を楽しみ会」)
- 2月11日(土)午後1時50分から 1階おはなしのへや
「はたらきもののじゅせつしゃけいてい」ほか (「プーの森」)
- 2月18日(土)午後1時50分から 1階おはなしのへや
「おにがでた」ほか (「コロボックルの会」)
- 2月25日(土)午前10時30分から 2階集会室
手遊びと読み聞かせ (「経専たまご隊」)
- 2月10日(金)午前10時30分から 2階集会室
「お茶をのみに」ほか (「まめっちょ」)

2月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1☆	2☆	3	4 お話会
5	6	7☆	8 お休み	9☆	10 お話会	11 お話会 映画会
12	13	14☆	15☆	16☆	17	18 お話会
19	20	21☆	22 お休み	23☆	24	25 お話会
26	27	28☆				



<携帯電話> <スマートフォン>
検索・予約・休館日確認は携帯電話・スマートフォンからできます。

展示と映画会

(展 示) 1階図書室

◆「冬季アジア札幌大会応援展示」

(1月26日～2月26日)

2月19日から始まる「冬季アジア大会」。かつて札幌で開催された冬季オリンピックを思い起こす方も多いでしょう。アジア大会を紹介するとともにオリンピックや冬のスポーツ関連の展示を行います。多くの方に応援に出かけてほしいものです。

◆「わたしはほっとけない～こころの健康」

(2月23日～3月7日)

毎年2万人以上の方が自ら命を絶っています。悩みや周囲の人の気づきと対応、相談先などを紹介するとともに関連する本を展示します。

◇(映画会) 2階集会室

2月11日(土)午後2時30分

◆「ホシガリ姫の冒険」「14 ひきのさむいふゆ」(47分)

○なんでもほしがる、わがままなお姫さまにみんなは困っていました。ある日、それを見た魔法使いがお姫さまにまほうをかけ、お姫さまはお城を追い出されてしまいます。さて、困ったお姫さまは…。

○冬が来た！仲良しの14ひきは、暖かい部屋の中でゲームをしたり、おまんじゅうを食べたり。晴れたら、そとでそり遊び。寒い冬もみんな元気！

※ 開館時間：金～月・祝日…午前9時15分から午後5時まで

火・水・木 …午前9時15分から午後7時まで (☆マークの日です)

*うら面もごらんください



さっぽろ市
02-S03-15-2012
27-2-1156

SAPPORO

子どもの本



『もりのやきゅうちーむ ふあいたーず つよさのひみつ』

北海道日本ハムファイターズ選手会/著(J/モ)
げんきにやきゅうをするためにひつようなことはなんだろう?こぐまのびーくんが、「げんき」になるためにしなくてはいけないことを、ふあいたーずのみんなとべんきょうします。

- ・『火を使わないで作るごはん』寺西恵里子/著(J/59/テ)
- ・『円周率の謎を追う』鳴海風/著(J/28/セ)
- ・『りんごちゃんとおひさまの森のなかまたち・4』太田知子/著(J/15/オ/4)

大人の本



『絵で見るニッポン銭湯文化』笠原五夫/著(383/カ)

日本からどんどん消えていく「銭湯」。銭湯の表も裏も知り尽くした「銭湯の主人」である著者が、銭湯の歴史をひも解き、時代による風呂用具の変化を紹介し、また、銭湯に来る人々や、表からは見えない銭湯の仕事を事細かに解説します。

- ・「最高の山ごはん」ホシガラス山岳会/著(596/ホ)
- ・「身近な人ががんになったときに役立つ知識 76」内野三菜子/著(494/ウ)
- ・「笑って、泣いて、考えて」永六輔/著(914/エ)

図書館員のオススメ本 ~ゆきの本~

『雪の写真家ベントレー』

ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン/著(J/ユ)

アメリカには、自然の雪の結晶を写真に撮っていた人がいました。科学者ではありませんでしたが、美しい雪の結晶の写真を本にし、たくさんの人に雪の美しさを知らせたベントレーの伝記絵本です。



『中谷宇吉郎 雪を作る話』中谷宇吉郎/著(404/ナ)

世界で初めて人工雪の結晶を作った中谷博士の随筆集。雪の結晶を観察するために十勝岳にこもった話などは、科学とはもつとも縁遠いはずの詩情すら感じさせます。「科学」と聞いただけで頭が痛くなる人にも、興味深い話が満載です。

南区の歴史こぼれ話

札幌オリンピック開会式のおもいで ~澄川図書館 W職員回想記

冬季アジア札幌大会が2月19日開幕しますが、今から45年前、第11回札幌オリンピック冬季大会が開催されました。特に南区はオリンピックのメイン会場となった競技場や選手村などがあり、当時のことを懐かしく思い出す方も多いのではないのでしょうか。真駒内屋外競技場で開催されたオリンピック開会式には、真駒内地区の小学生846人が色とりどりの風船18000個を空に放つ「風船スケーター」として参加しました。その中の一人、Aさんに当時の思い出を伺いました。「小学4年から6年までのスケートのできる子が動員されました。入場口からすべりだし、トラックに沿って円陣をつくっていくのですが、何回も学校から会場へ行って練習しました。」1972年(昭和47年)2月3日快晴の開会式。聖火リレー、聖火台点火が終了し、いよいよフィナーレ。風船スケーターたちの登場です。A少年は全世界の観衆の見守るスケートリンクを滑り出しました。「とにかく、リンクの氷が、練習とは違って、鏡のようにツルツルで固くびっくりしました。テレビに映っているんだしころばないように気をつけようと思いました」。しかし、次々こころぶ級友たちが翌日の新聞に大きく取り上げられたのを見て、「うまくすべればいいというものではないのだと子ども心に悟ったのですよ」とAさんは笑います。また、聖火リレー最終走者の高校生たちと待機場所が同じだったため、彼らの本番で見せた華麗で颯爽とした晴れ姿は、間近に見たA少年の心に深く刻まれたそうです。ちなみに筆者も90m級ジャンプを学校観戦。70m級ジャンプで金・銀・銅メダル独占の快挙を成し遂げた笠谷選手をはじめとする「日の丸飛行隊」に胸を躍らせたものです。また、オリンピックの影響で札幌の小学生の間でスケートが大流行。当時の真駒内アイスアリーナには人気のジャネット・リン選手になりきって滑る真新しいスケート靴を履いた子供たちがたくさんいました。

この札幌オリンピックを契機に札幌のまちは大きく変わりました。今後、札幌で再び冬季オリンピックが実現するとしたら、都市整備、経済効果のみならず、次代を担う子どもたちが多くの夢を持ち、一生忘れない思い出をつくる場になることでしょう。

【札幌オリンピック関連参考図書】

- 『札幌オリンピックが残したもの』札幌ウィンタースポーツミュージアム/編、
- 『さっぽろ文庫 16 冬のスポーツ』札幌市教育委員会/編、
- 『新札幌市史 通史五(上)』札幌市教育委員会/編



札幌オリンピック記念切手 (個人蔵)